

9月9日インテックス大阪で開催された「スマートエネルギーWeek」展示会を調査しました。

今年も太陽電池展、太陽光発電システム施工展の他に、風力発電展、スマートグリッド展、バイオマス発電展、水素・燃料電池展などの多くの展示会が開かれていて、多くの情報を入手出来ました。

創エネ神戸は香川、三上が調査しました。

## 1、会場の様子



新型コロナの影響で展示エリアが従来の4割ほどに縮小されていました。

9月9日～11日（3日間）総来場者数：約15700人（主催者発表）

## 2. 各ブースの概要

2019年にFIT制度が廃止され、再生可能エネルギーの発電電力は自家消費型（PPA）へ移行しつつあります。企業向けには「売る時代」から「創って使う時代へ」と謳っていました。

自家消費型の太陽光発電システムの関連製品が中心に多く展示されていました。

PPA：Power Purchase Agreementの略、「電力販売契約」

### 2. 1 太陽光発電、太陽電池、蓄電池展示ブース

#### 1) ニチコン

家庭用蓄電システム・リチウムイオンバッテリー急速充電器・EV車用バッテリー・EVパワーステーションなどを生産している。

蓄電システムは『ニチコンワカサ』で作られている。



#### 2) XSOL（エクソル）

自家消費型太陽光発電システム、住宅用停電レス型創エネ・蓄エネシステム、非常用自立運転コンセント等を展示。

商品名：PPA マッチング（PPA事業者向け）、

グリーンチケット（CO2排出削減量を売買）、

SAVE-1（創エネ、省エネ、蓄エネをトータル管理）  
など



### 3) L000P

法人向け自家消費型太陽光発電システムは、通常支払っている電気代を設備投資に充当する考え。

ただ容量は 200KW 以上なので、小規模の福祉施設や保育園施設には向かないようである。

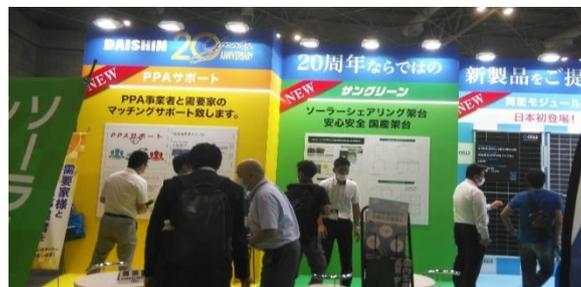
住宅向け太陽光発電システムは蓄電池も備わり不安定な発電をカバーするよう考えられている。今後の主流となるのか。



### 4) 大辰

太陽光パネルの施工実績から始め、自家消費型太陽光発電システムを販売している。

ソーラーシェアリングの架台、屋根に穴開け不要の陸屋根アンカーレス架台など、特徴有る製品も扱っている。



## 2. 2 バイオマス展ブース

多くの企業が出展をしており、少し時間をかけて各ブースを見学し、多くの資料を収集しました。

## 2. 3 大容量ポータブル電源

電源環境のない山岳地帯や、災害被災地などの照明用電源に使用できる大容量・高出力ポータブル電源の展示がありました。

キャリングケースタイプで非常時でも持ち運びができ、必要な場所でも電源供給が可能である。UPS 機能も装備。

1000W/3000W タイプがある。

- ・ 1000W タイプ： ¥600,000 円 (26kg) 500W 消費電力で約 2 時間使用
- ・ 3000W タイプ： ¥1,500,000 円 (50kg) 500W 消費電力で約 6 時間使用



3000Wポータブル電源

## 3. セミナー受講

次の講演を聴講しました。(香川)

### 1) 脱炭素・レジリエンス向上に向けた分散型エネルギー社会の実現に向けて

講演者：東京電力パワーグリッド（株）経営企画室 運営事務局長 今田 博己

コロナ禍において自然災害の激甚化が進む日本ではより一層の地域レジリエンスを高めていく必要がある。更に世界規模での課題として、脱炭素に向けた取り組みは引き続き重要な国家レベルの課題がある。脱炭素・レジリエンス向上に向けては、分散型エネルギー活用社会への変革が急務であり、その実現を見据え目指すべき方向性について報告がありました。

### 2) 分散型エネルギーリソースの有効活用に向けた取組みについて

講演者：大阪ガス（株）エネルギーソリューション事業部 開発部長 吉村 和彦

温室効果ガスの排出抑制に向けた低炭素化のトレンドを踏まえ、また国内エネルギーレジリエンスの向上に資する様々な分散型電源の普及促進、さらに脱炭素を念頭に置いた再生エネルギーの活用など、多面的な視点から大阪ガスの取組みについて報告がありました。

(文・写真 香川榮一 三上博之) (編集 岡本統一)